フィールド（現場）からの風 ㊼

宮澤守男

日常の中の大切さを考えよう「時間」の

今日は「時の記念日」。大正時代に「時間をきちんと守り、欧米並みに生活の改善・合理化を図ろう」と呼び掛けたのが時の記念日のはじまりだ。それまでは、昼夜をそれぞれ六等分した「一刻」が基準で昼夜の長さは季節によって変わるため「一刻」も常に変動。庶民が頼りにしたのは、各地域の城や寺院が鳴らす鐘の音。現在も各地の防災無線で時間を知らせるのは、この名残だとの説もある。

現在の日本人は「時間に厳しい国民」というイメージがすっかり定着、時刻表通り運行する日本の鉄道の正確さは世界随一と評価され、訪日外国人が駅ホームで、到着時間を腕時計などで確認する観光目的としても有名だ。

しかしJR東日本は、利用者数の少ない駅などの駅時計の管内全体の3割に当たる約500駅を対象に10年程度で撤去する計画で作業を進める方針だ。

撤去は新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受け経営が圧迫されており、駅時計の多くは親時計の時刻と電気で連動させるためケーブルなどのコストが掛かるための節約だ。

撤去が問題になり、JRに見直しを要請したとの情報もある。存続問題が論議される大糸線の各駅の駅時計の現状はどうなのだろうか?。各駅の置かれた現状に関心を持つ事が必要だ。

毎日届く情報を楽しみに参加している「加藤和郎とI―media情報長屋」。グループエキスパートの加藤和郎さんの情報は、多様な視点から時の出来事を伝える。

春の連休での遭難事故の歴史や「長野県警察山岳遭難救助隊」の正式発足の歴史。漢詩「水急不流月（みずきゅうにしてつきをながさず）」を紹介。どんなに急な流れでも水に映る月は流されることはない。川の流れ（流行）は時により姿を変えるが、そこに映る月のように自分の気持ちは「時流に揺らぎながらも不変」でありたいと。急流に浮かぶ月影を自分だと想えとも。

ある時は与謝野晶子の言葉「創造は過去と現在を材料としながらも新しい未来を発明する能力です」を紹介。インパクトが強すぎて世間から大バッシングを受け「本当の気持ちを詠まないのは詩では無い」として現在の文芸・思潮への功績を伝えるなど多様な情報は毎日の生活にさまざまな思いを抱かせてくれている。読み捨てするには惜しく紹介させていただいた。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

地域内道路・水路敷草刈作業。荒廃が進む現状とメンバーの高齢化が課題だ